

令和7年10月14日

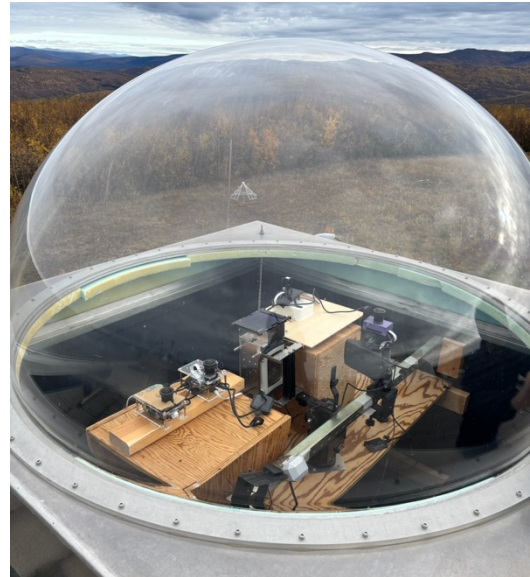
アラスカ出張報告

佐藤薫野

総合研究大学院大学 5年一貫制 極域科学コース 1年

滞在期間：令和7年9月17日～令和7年9月22日

2025年9月17日から22日にかけて、アラスカ州フェアバンクス近郊の Poker Flat Research Range (PFRR) に滞在し、新たな全天カメラの設置を行った。今回の出張の目的は、Raspberry Pi に魚眼レンズを取り付け、特殊なフィルターを用いた全天カメラを現地に導入し、観測を行うことである。同行者は片岡龍峰先生(OIST)であり、ご指導をいただきながら、観測ドーム内での設置・調整・撮影確認など一連の作業を進めた。



到着後はまず PFRR の施設全体を見学し、その後ドーム内で設置作業に取りかかった。露光時間やゲインの組み合わせを試しながら最適な条件を探り調整を行った。想定どおりに撮影が進まないことも多く、エラーの原因を理解するのに時間を要したが、試行錯誤の過程で多くの発見があり、実験的な設置作業の難しさと面白さを実感した。

現地での撮影確認では、しばらくオーロラが現れず、観測の難しさを感じる場面もあった。しかし、調整を重ねながら撮影を継続した結果、帰国後のデータ解析において、カメラがオーロラの光を捉えていたことを確認できた。研究のためのデータ取得というプロセスを自ら体験し、観測がいかに多くの人々に支えられて成り立っているかを強く感じた。

また、作業を通じて現地運用に求められる判断力やトラブル対応の速さを間近で学ぶことができた。研究室での解析作業とは異なり、実際の観測現場では機器の動作だけでなく、時間や天候など、複数の条件を同時に考慮しながら行動する必要がある。その感覚を肌で感じられたことは、今後の研究活動において大きな財産になると感じた。

今回の滞在を通して、自分の未熟さや準備不足を痛感する一方で、特に、困難に直面しても最後まで粘り強く取り組むことの大切さを学んだ。この経験を糧に、今後は今回得られたデータを活用し、研究をさらに発展させていきたい。

最後に、本出張にあたり多大なご指導とご支援をいただいた 片岡 龍峰 先生をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げる。